

オリンピック・パラリンピック 東京大会に向けた本市の取組について

かわさきパラムーブメント推進フォーラム

第1回推進会議

平成27年10月19日

川崎市

東京大会日程と競技会場

- オリンピック競技大会 2020年7月24日(金)～8月9日(日) (17日間) 28競技
 - パラリンピック競技大会 2020年8月25日(火)～9月6日(日) (12日間) 22競技
- オリンピック競技会場 (2015年8月現在、東京2020ホームページより)

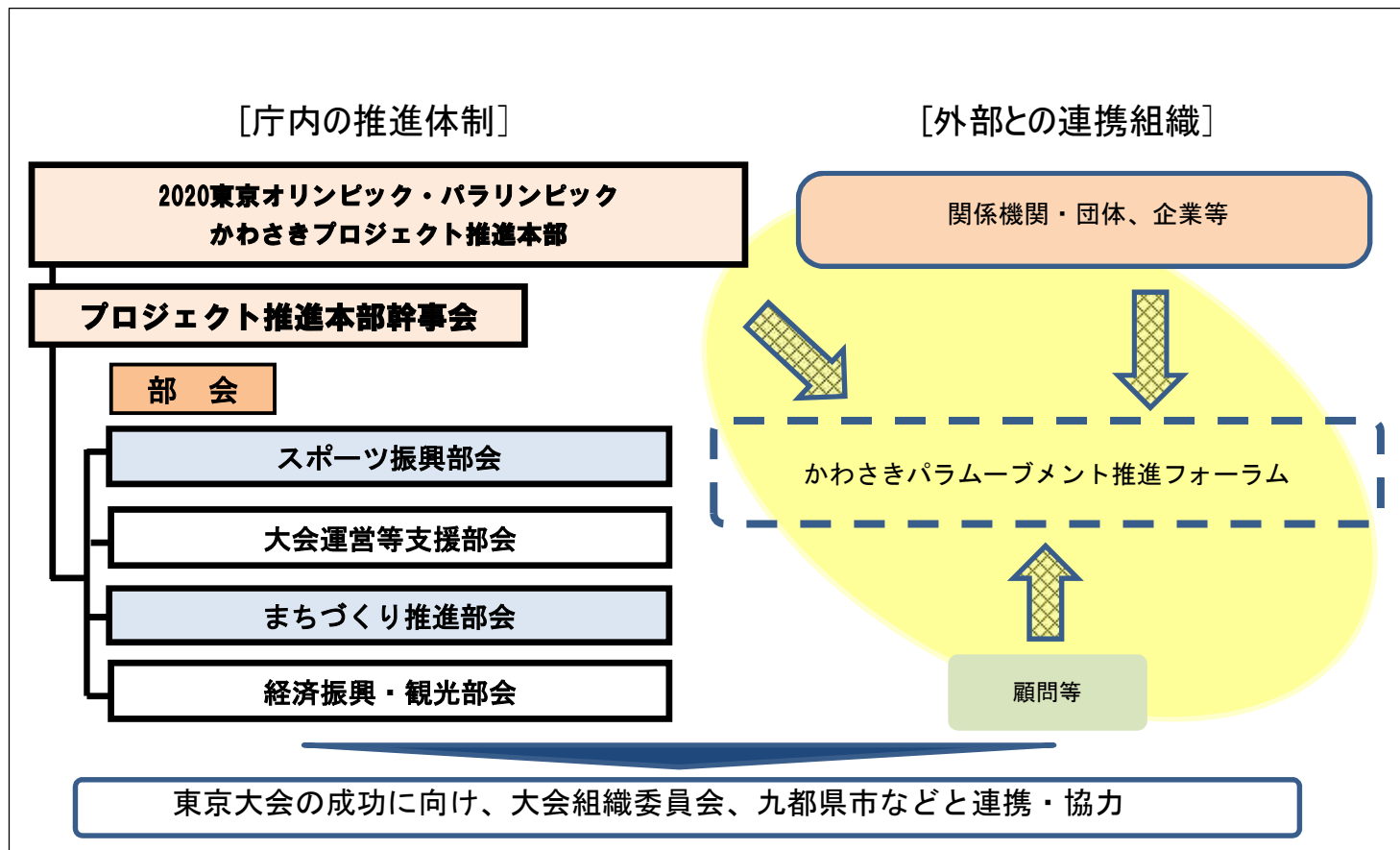
競技/種別	会場
開会式/閉会式	新国立競技場 (オリンピックスタジアム)
陸上競技	
サッカー	
卓球	東京体育館
ハンドボール	国立代々木競技場
柔道	日本武道館
ウエイトリフティング	東京国際フォーラム
ボクシング	国技館
バレーボール (インドア)	有明アリーナ
体操	有明体操競技場
テニス	有明テニスの森
トライアスロン	お台場海浜公園
水泳 (マラソン10km)	
バレーボール (ビーチバレーボール)	潮風公園
ホッケー	大井ホッケー競技場
馬術 (総合馬術: クロスカントリー)	海の森クロスカントリーコース
ボート	海の森水上競技場
カヌー (スプリント)	
カヌー (スラローム)	カヌー・スラローム会場
アーチェリー	夢の島公園

競技/種別	会場
水泳 (競泳、飛込、シンクロナイズドスイミング)	オリンピックアクアティクスセンター
水泳 (水球)	東京辰巳国際水泳場
馬術	馬事公苑
近代五種 (フェンシング)	武蔵野の森総合スポーツ施設
バドミントン	
ラグビー	東京スタジアム
近代五種 (水泳、馬術、ランニング、射撃)	
バスケットボール	さいたまスーパーアリーナ
射撃	陸上自衛隊朝霞訓練場
ゴルフ	霞ヶ関カンツリー倶楽部
レスリング	幕張メッセ
フェンシング	
テコンドー	
セーリング	江の島ヨットハーバー
サッカー	東京スタジアム
	札幌ドーム
	宮城スタジアム
	埼玉スタジアム2002
横浜国際総合競技場	
自転車競技 (ロード・レース、BMX、トラック・レース、マウンテンバイク)	調整中

※パラリンピックの競技会場は現在検討中

■本市の推進本部体制

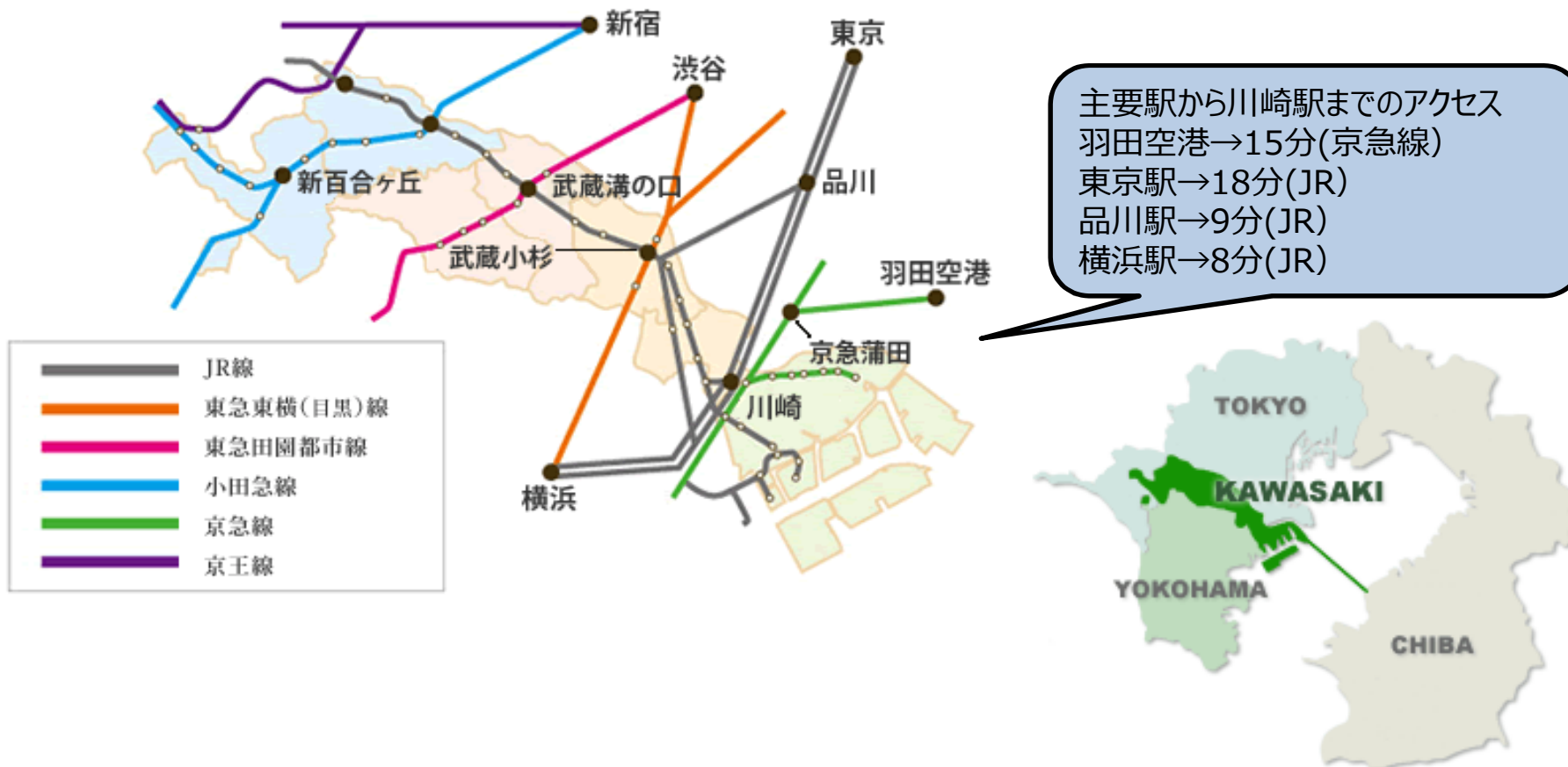
- 2014年1月21日「東京オリンピック・パラリンピックかわさきプロジェクト推進本部」を立ち上げ
- 九都県市などと連携し、今後具体化する大会組織委員会の意向に沿って東京大会を支援
- 平成26年度に「かわさきパラムーブメント」を基本方向とする取組方針を策定
- 関係機関・団体・企業等との外部連携組織として平成27年10月にかわさきパラムーブメント推進フォーラムを設置



東京大会に関わる本市の状況 ～ポテンシャルと課題～

①立地・交通

- 北は多摩川を挟んで東京都と南は横浜市にそれぞれ隣接
- 充実した道路網や鉄道網（政令指定都市2番目の鉄道駅密度の高さ）を有し、新幹線や羽田空港等へのアクセス性が高く、利便性の高い交通ネットワークが構築
- さらに羽田空港とキングスカイフロントを結ぶ羽田連絡道路の整備計画が進行中



東京大会に関わる本市の状況 ～ポテンシャルと課題～

②大規模スポーツ施設の活用

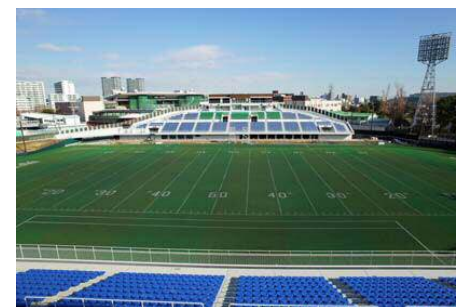
- スポーツを観戦する環境づくりとともに、多目的に利用できるスポーツ・文化・レクリエーション活動拠点の整備を進めている。

○整備を進めている主な施設

富士通スタジアム川崎(川崎富士見球技場) (川崎区)

収容人数:4,000人

フィールドを拡張し、4,000席の観客席を整備した川崎富士見球技場。本市初のネーミングライツ導入施設として「富士通スタジアム川崎」の愛称で平成27年4月に供用が開始した。



等々力陸上競技場 (中原区)

収容人数:27,495人

平成24年12月から改築工事を行ってきた等々力陸上競技場のメインスタンドが平成27年3月14日にリニューアルオープン。バラエティに富んだ観客席や大型映像装置の設置により、さらに楽しく、快適に。



スポーツ・文化総合センター (川崎区)

富士見周辺地区整備と連携しながら、スポーツ・文化・レクリエーション活動の拠点機能の強化を図ることを目的として、体育館(観覧席約1,500席)やホール(約2,000席)、会議室等を備えた施設の整備を進めている。平成29年10月 供用開始予定。



東京大会に関わる本市の状況 ～ポテンシャルと課題～

③ 魅力ある観光・文化資源

- 本市は音楽ホールとして世界的に評価の高いミュザ川崎シンフォニーホールのほか、観光資源としても注目される工場夜景、さらには、近年外国人観光客にも人気の高い、藤子・F・不二雄ミュージアムや日本民家園など、魅力ある観光・文化資源を有している。

藤子・F・不二雄ミュージアム

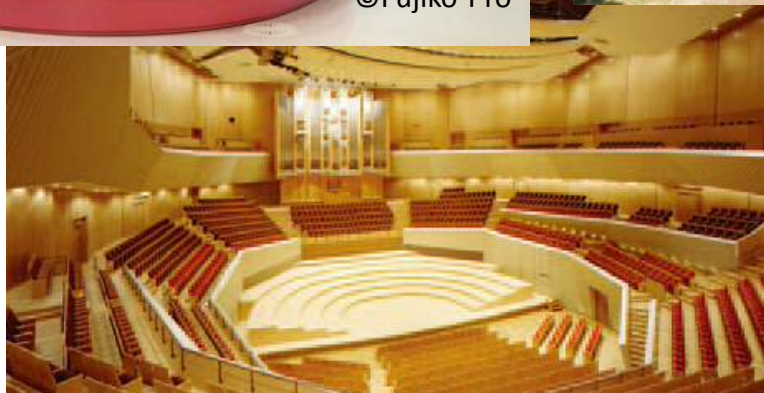


©Fujiko-Pro

日本民家園



岡本太郎美術館



ミュザ川崎シンフォニーホール

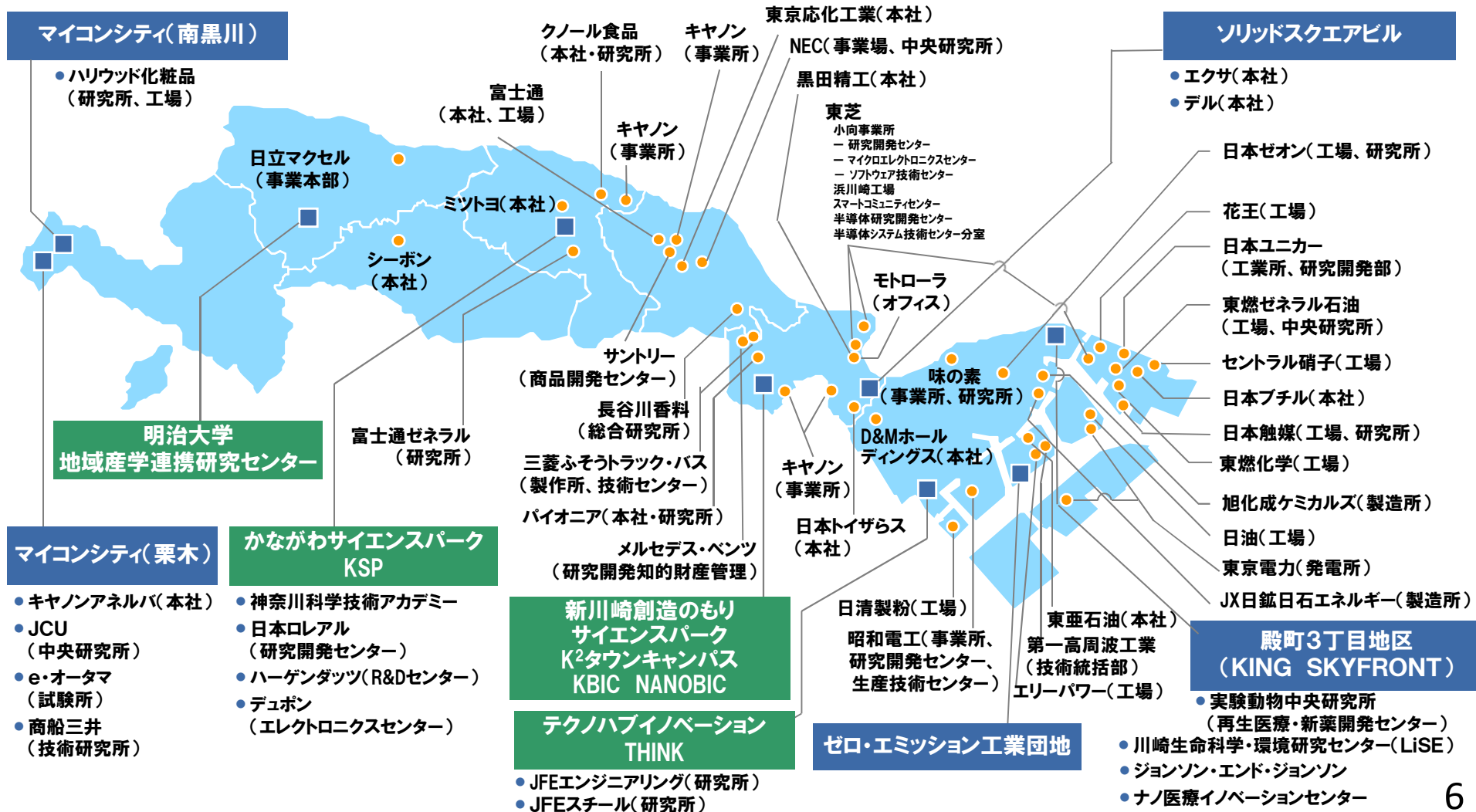
工場夜景



東京大会に関わる本市の状況 ～ポテンシャルと課題～

④ 研究開発機関の集積

- 市内には200以上の研究開発機関が立地し、研究者・技術者が集結している。
- 臨海部の殿町地区では、羽田空港の多摩川対岸という好立地を活かし、ライフサイエンスや環境分野の研究開発拠点として、国際的な研究所、企業などを誘致している。



東京大会に関わる本市の状況 ～ポテンシャルと課題～

⑤川崎のものづくり 認証福祉製品かわさき基準（KIS）の取組

- 「かわさき基準」は、高齢者になったり、障害をもったとしても、住みなれたまちで、誰もが自立して楽しく安心に暮らせることを目指した川崎市独自の福祉製品のありかたを示した基準。
- 認証事業は平成20年度から行っており、これまで128製品を認証。
- 取組を強化するため平成25年度からウェルフェアイノベーションフォーラムを設立、260を超える関係企業・団体が福祉と産業を繋ぐネットワークを形成し、UDタクシーツアー等の新たなサービス・製品を創出。



製品事例1

【ニコ・ドライブ】

肢体不自由の方でも手動で運転ができる装置

国内では初となるレンタカーへの導入も開始



製品事例2

【ロボットスーツHAL®シリーズ】

脳からの指令を感じ取って作動する世界初のサイボーグ型ロボット

製品は、福祉用(下肢)、作業支援・介護支援用(腰)、自立支援用(単関節)など

東京大会に関わる本市の状況 ～ポテンシャルと課題～

⑥ 人にやさしい公共交通 UDタクシーとノンステップバス

- ユニバーサルデザイン（UD）タクシーは、高齢者、車いす使用者、ベビーカー利用者、妊娠中の方など、誰もが利用できる＝“みんな”にやさしいタクシーとして、本市では、平成29年度を目途に法人タクシー（平成27年で1,448台）の概ね10%に導入することを目標に、平成27年3月では、32台（2.5%）となっている。
- 市営バスでは、平成10年からノンステップバスを導入。平成27年3月では、総車両数338台のうちノンステップバスは317台（93.8%）。市内民間バス事業者3社では、総車両数445台のうちノンステップバスは332台（74.6%）となっている。

■ UDタクシー



H25.3 川崎駅西口に全国初となるUDタクシー対応乗り場を整備
H25.7 川崎駅東口に専用乗り場を整備 画像の出典：市交通政策室公表資料



ユニバーサルタクシー
＝
“みんな”にやさしいタクシー



■ ノンステップバス ～みんなにやさしい機能の事例～



● 停留所名表示機
画面の大型化により
視認性を向上
ローマ字、中国語、
韓国語を表示し言語
もバリアフリー

● ハイブリッドバス
● CNGバス
二酸化炭素、排気
ガスの排出量を低
減するバスの導入
により地球環境に
もやさしい

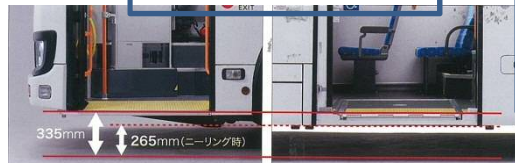


● フリースペース
車椅子やベビー
カーを折りたたま
ずに乗車できる
● 自動巻き取り固
定ベルト
車のシートベルト
の要領で車いすを
固定できる



● ノンステップ
段差がなくスムーズに
乗降できる

● ニーリング機能
乗り場の高さにあ
わせて車両をやや傾
けることができる



● スロープ版
平成27年度から対
応がスムーズな反転
式も順次導入

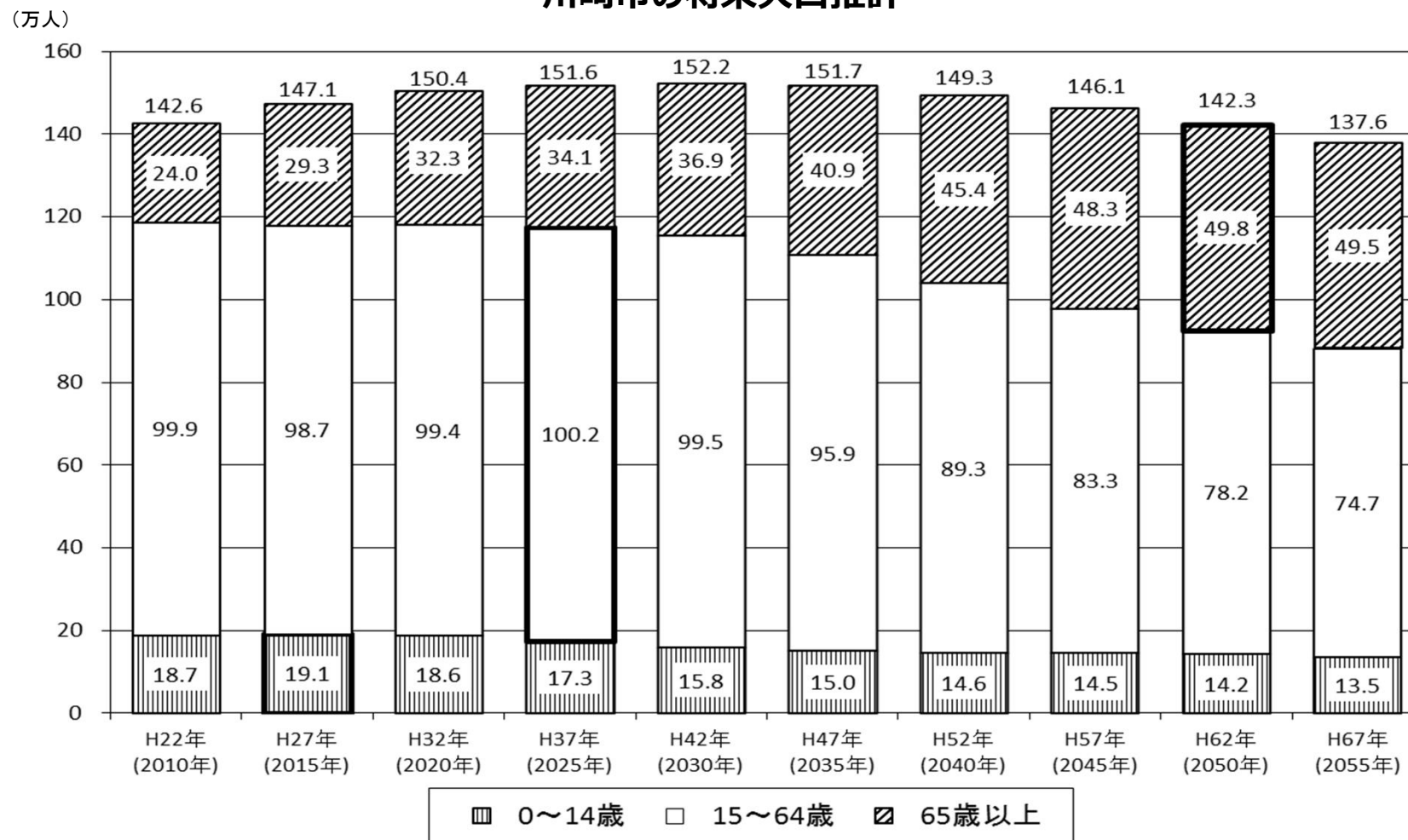


東京大会に関わる本市の状況 ～ポテンシャルと課題～

⑦ 少子高齢化のさらなる進展、人口減少への転換、生産年齢人口の減少

- 本市においても、平成32（2020）年には65歳以上の割合が21%を超える超高齢社会が到来し、平成42（2030）年には人口減少へ転換する。

川崎市の将来人口推計

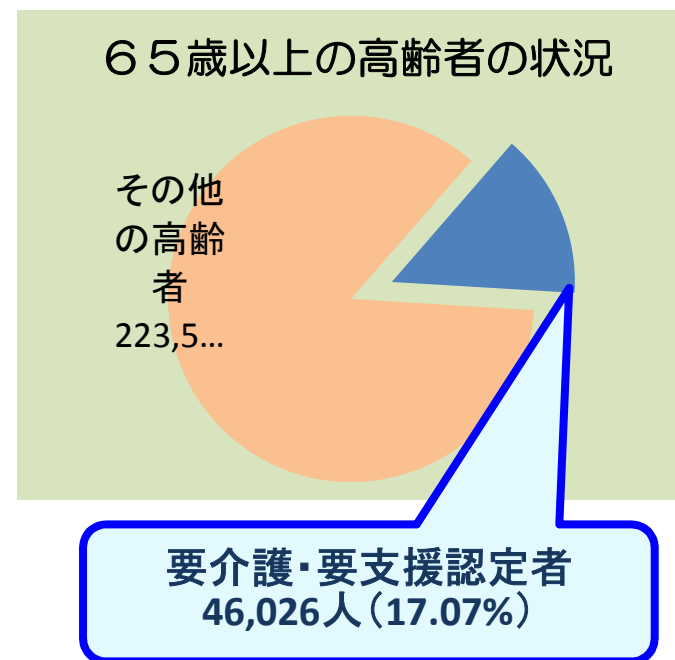
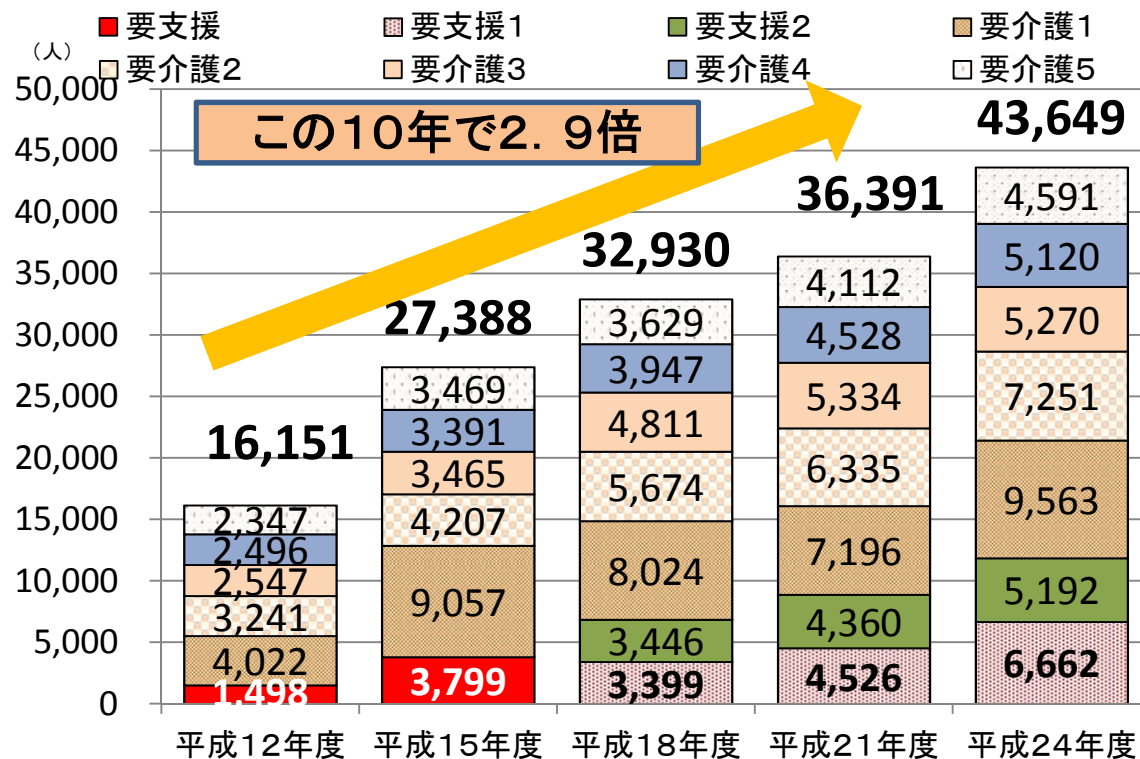


東京大会に関わる本市の状況 ～ポテンシャルと課題～

⑧要支援・要介護認定者数の推移

- 要支援・要介護認定者は、介護保険スタート時（平成12年度）から一貫して増加傾向にあり、その数は約2.9倍増加している。
- 65才以上の市民のうち17%弱が要支援・要介護の認定を受けており、この割合も増加しているというデータもある。

要介護認定の状況



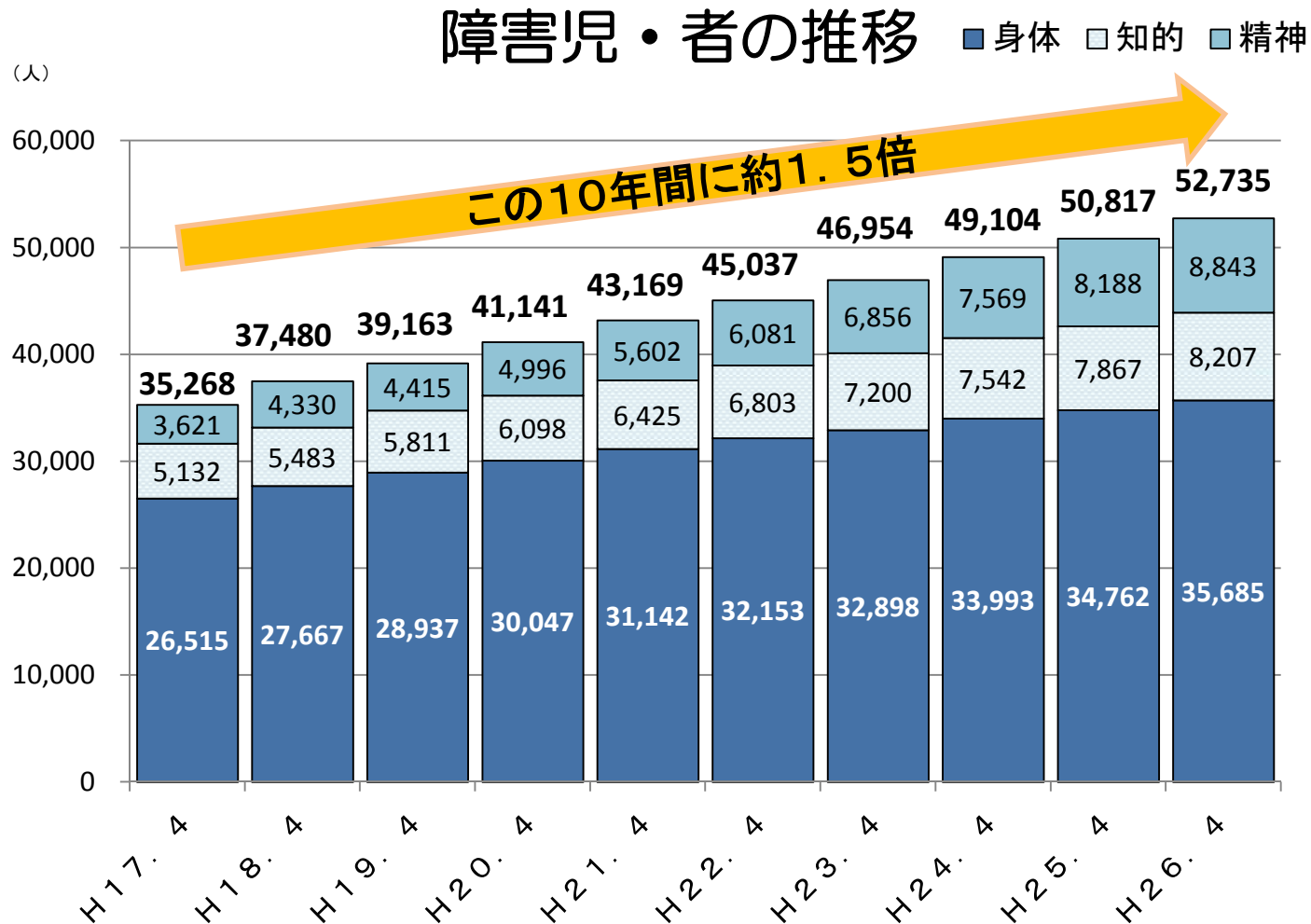
出典：介護保険事業報告（年報）（各年度末）

資料：住民基本台帳を基に作成（平成26年10月1日現在）

東京大会に関わる本市の状況 ～ポテンシャルと課題～

⑨ 障害児・者数の推移

- 障害児・者数は、年々増加傾向にあり、この10年間で約1.5倍に増えている。

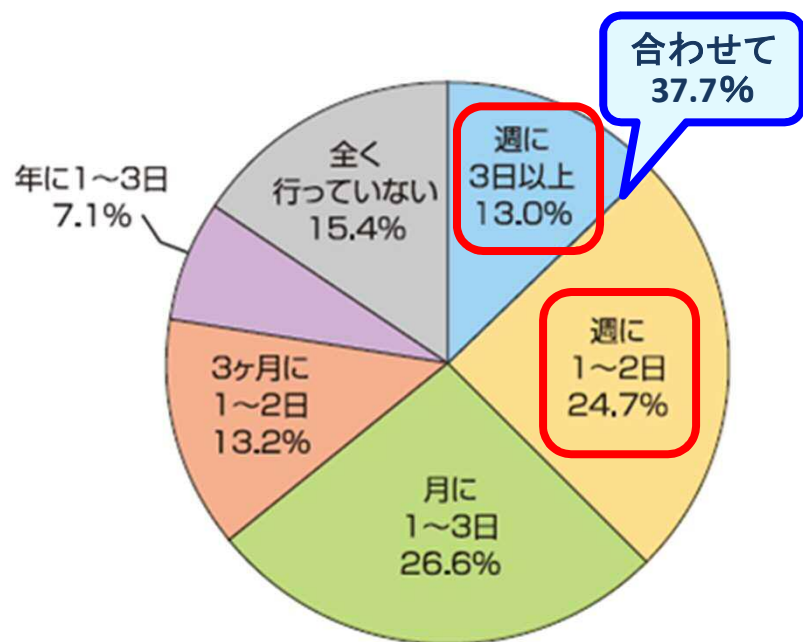


東京大会に関わる本市の状況 ～ポテンシャルと課題～

⑩市民のスポーツ実施頻度

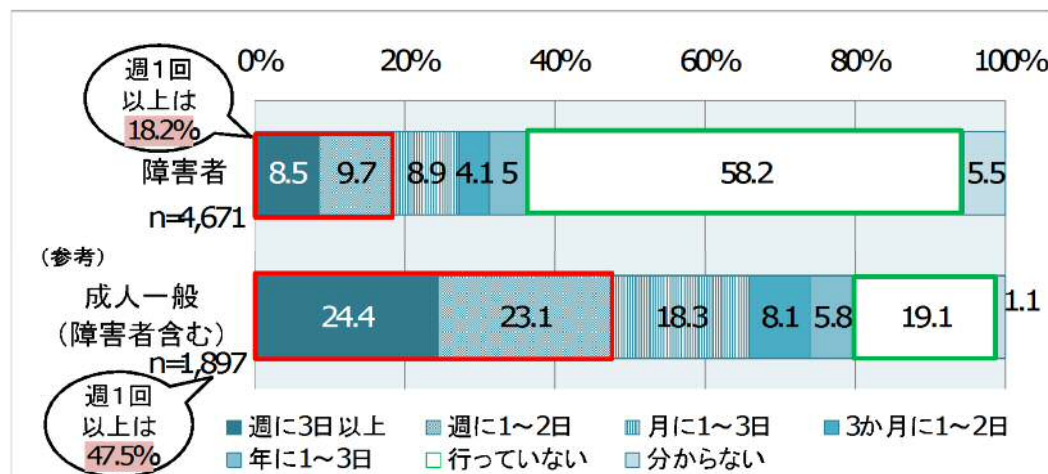
- 川崎市民のスポーツの実施頻度については、週1回のスポーツ実施率は37.7%であり、全国平均の45.3%（2009年度）に比べて低い。約8割の市民は運動不足を感じており、特に30～40歳代の働き盛り世代で運動不足を感じている人が多い傾向が見られる。
- 全国的に障害のある人のスポーツ実施率は低く、成人では18.2%にとどまっている。

スポーツの実施頻度



回答者数=1,168人

障害者(成人)が過去1年間にスポーツ・レクリエーションを行った日数



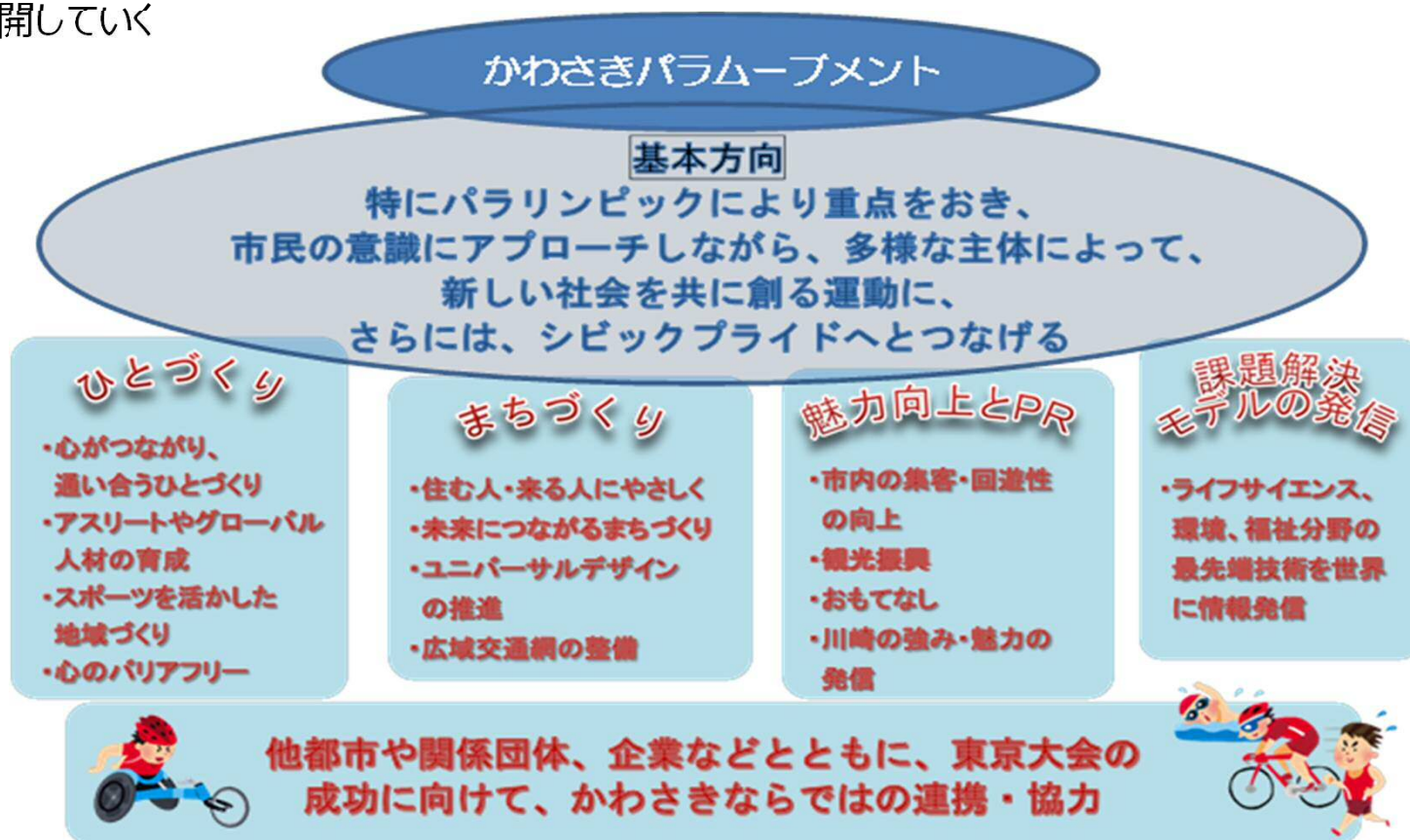
出典:文部科学省委託事業『『健常者と障害者のスポーツ・レクリエーション活動連携推進事業(地域における障害者のスポーツ・レクリエーション活動に関する調査研究)』報告書』

出典:「川崎市スポーツ推進計画」(2012年9月)

「かわさきパラムーブメント」

～2020のその先につながる川崎発のムーブメント～

- 東京大会への本市の姿勢として、パラリンピックにより重点をおき、「かわさきパラムーブメント」をメインコンセプトに掲げ、その理念をインフラや社会システムの整備など本市の様々な施策展開に投影していく
- 人口減少・超高齢社会を迎える川崎市にとって、バリアフリーをはじめとしたパラリンピックに向けた取組を推進することは、2020年の先の誰もが暮らしやすく、一人ひとりが能力を発揮できるまちづくりを先取りしたものとなる
- 「かわさきパラムーブメント」は、2020年のその先につながる新しい社会を市民と共に創る運動として取組を展開していく



主な取組

JOCパートナー都市協定締結

オリンピックムーブメントの推進・国際競技力向上に向けて、連携・協力体制の充実・強化を図ることを目的として、平成27年3月30日（月）にJOCと本市の間でパートナー都市協定を締結した。

平成14年7月から平成24年5月までに17都市がパートナー都市として協定を締結しており、本市は18都市目、政令市では8都市目、2020東京大会招致後では初となる。

協定内容

川崎市：国際競技力向上のための支援・JOC加盟団体への施設提供

- 川崎市とどろきアリーナ
- 等々力陸上競技場及び補助競技場
- 川崎富士見球技場（富士通スタジアム川崎）
- 川崎マリエンビーチバレーコート

JOC：スポーツ振興のための各種事業の支援・協力（川崎市が行うスポーツ教室へのオリンピック選手の派遣など）



H27年度：JOC協定事業
スポーツ教室の開催

左：ランニング教室
（志水見千子さん）
右：トランポリン教室
（中田大輔さん）



主な取組

■ トップアスリートの就職支援「アスナビ」説明会開催

JOCは、世界を目指す現役トップアスリートの就職支援活動として、トップアスリート就職支援ナビゲーション（通称「アスナビ」）を経済団体等と連携し東京を中心に全国で開催している。パートナー都市協定に基づく連携事業として、県内で初めて川崎市で開催した。

開催概要

開催日・会場： 平成27年4月16日（木）
川崎フロンティアビル2階KCCIホール

主催： JOC

共催： 川崎市、川崎商工会議所、市スポーツ協会

参加企業・団体： 51団体 72名

内容： 就職希望アスリート7名によるプレゼンテーション

（種目： 競泳、テコンドー、ビーチバレー、フェンシング、
スケートショートトラック）

対談では、朝日健太郎さんをはじめパラリンピアンとして
は成田真由美さんが初参加

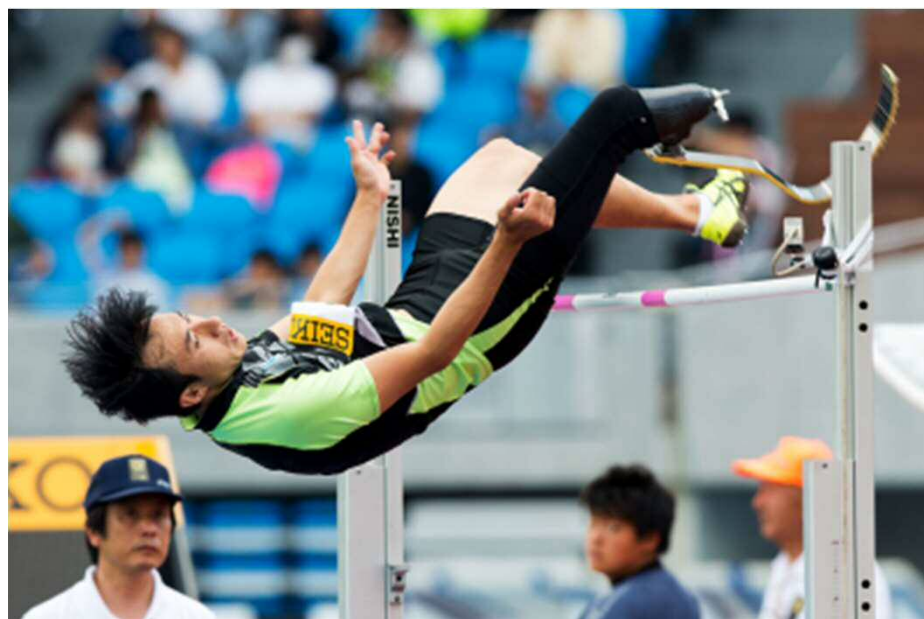
アスナビ川崎市開催は神奈川県では初（パートナー
都市協定に基づく連携事業）



主な取組

■ 大規模スポーツ大会で新たなムーブメントを推進 ～ゴールデングランプリ陸上2015～

国内唯一の国際陸上競技大会「セイコーゴールデングランプリ陸上2015川崎」が5月10日（日）3年ぶりに等々力陸上競技場で開催された。今大会は、初のパラリンピック種目を取り入れた大会となったほか、午前中に市内小学生と市内障害者陸上クラブが参加したサブイベントを実施し、「かわさきパラムーブメント」への大きな一歩を踏み出した。



主な取組

■ パラムーブメント推進に向けた市内施設活用① ～公共施設活用型プロジェクト（陸上）～

元五輪陸上選手の為末大氏らを中心とした競技用義足の研究や開発を行うプロジェクト「Xiborg」と連携した取組として、Xiborgのチームに所属する3人の義足のトップアスリートをはじめ、パラリンピアンや地元障害者スポーツ団体の練習場所として、月1回の優先利用枠を設定する方式で、等々力陸上競技場の活用を進めている。



主な取組

■ パラムーブメント推進に向けた市内施設活用② ～民間スポーツ施設活用型プロジェクト（競泳・ボッチャ）～

宮前区鷺沼にあるスポーツクラブメガロスから、オリパラを目指すアスリートに施設を無償提供したいとの提案を受け、パラリンピック強化指定選手の施設利用に係る協定を平成27年9月1日に締結。

今後も障害者スポーツの更なる普及促進に向けて、民間施設も含めた市内スポーツ施設の活用について検討を進めていく。

本協定で利用を想定する競技

①競泳

ジャパンパラ、全国障害者スポーツ大会等の全国レベルの水泳大会、パラリンピック等の国際大会を目指す選手の練習場所としてプールを活用する。

②ボッチャ（パラリンピックの正式種目）

全国ランキングで上位に位置する選手の練習場所としてスタジオ等を活用する。



主な取組

■ 全国規模の障害者スポーツ大会の開催 ～日本アンプティサッカー選手権大会2015～

病気やけがで上肢や下肢を切断した障害を持つ選手が杖（クラッチ）を使用してプレーするアンプティサッカーの日本選手権大会を富士通スタジアム川崎で開催する。

全国規模の障害者スポーツ大会を市内施設で開催することにより、観戦スポーツとしての魅力を伝えるとともに、ボランティアなど障害者スポーツを支える人材育成を進めていく。

第5回日本アンプティサッカー選手権大会2015

開催日：2015年11月22日（日）・23日（月・祝）

会場：富士通スタジアム川崎

主催：特定非営利活動法人日本アンプティサッカー協会

後援：公益財団法人日本サッカー協会

公益財団法人日本障がい者スポーツ協会

川崎市、川崎市教育委員会

公益財団法人川崎市スポーツ協会

協賛：(株)川崎フロンターレ、プーマジャパン(株)



5つの方向性に沿った取組のイメージ

- レガシーの視点を重視しながら、5つの方向性に沿った取組の検討を進めていく
- 推進フォーラムの意見も踏まえ、川崎独自のレガシー像を形成し、推進ビジョンに反映させる

方向性	レガシーとして引き継ぐもの	東京大会までの取組例
ひとづくり	<ul style="list-style-type: none"> ✓ ボランティア文化（人材・しくみ・意識） ✓ 心のバリアフリー ✓ 国際社会に貢献できる人材 ✓ 仕事・働き方の変化 	<ul style="list-style-type: none"> * ボランティア人材の発掘・育成 * ボランティア登録・コーディネート制度の整備 * 障害者と健常者が交流する機会の充実 * 英語教育や国際交流の推進 * 障害のある人が就労しやすい環境づくり
スポーツ振興・健康づくり	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 健康増進につながるスポーツや運動の習慣 ✓ 誰もがスポーツに親しめる環境（拠点・指導者） 	<ul style="list-style-type: none"> * スポーツに親しむ機会の提供 * 障害者スポーツ推進体制の構築 * 大規模スポーツ大会等を通じた障害者スポーツの普及
まちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ✓ ユニバーサル化（バリアフリー化・多言語化等）の進んだ公共空間 ✓ キングスカイフロントを含む、羽田空港を核とした成長戦略拠点と交通ネットワーク 	<ul style="list-style-type: none"> * 公共空間のバリアフリー化の推進 * 移動手段のユニバーサル化の推進（UDタクシーやノンステップバスの普及や利用環境整備） * 公共サインの多言語化の推進 * 羽田連絡道路整備の推進
都市の魅力向上	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 市民・来訪者がICTを利用しやすい環境 ✓ 多言語に対応した観光施設 ✓ 拠点化、ネットワーク化された市内観光資源 ✓ 国内外に浸透した本市のブランドイメージ 	<ul style="list-style-type: none"> * Wi-Fiアクセスポイントの充実 * 多言語による魅力発信や、観光施設における多言語サービスの充実 * 東京大会を意識した企画の実施（各施設） * 市内観光拠点の周遊ルートの設定
先進的な課題解決モデルの発信	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 最先端技術に関する世界的なプレゼンス ✓ 新たな製品・サービスを活用した課題解決モデル 	<ul style="list-style-type: none"> * 水素関連技術、次世代自動車の普及促進等のPR * ウェルフェアイノベーションの推進

分野別の検討事項

- 東京大会の開催に向け、他都市等と連携・協力した取組やスポーツ文化、経済の振興など4つの部会において分野別の検討を進めている。

■ スポーツの振興

- 障害者スポーツ推進機関組織化
- ピープルデザイン川崎プロジェクトと連携した取組
- ジュニア選手強化事業の実施
- 市民参加のスポーツイベントの定期的な開催
- 周年事業等を捉えた友好・交流都市とのスポーツ交流
- JOC・JPC等の活動への支援・協力 など



■ 大会運営等の支援

- 会場運営等ボランティアの派遣
- ボランティア人材育成セミナーの開催
- 大会運営の支援を通じた心のバリアフリー、ダイバーシティのまちづくりの推進
- 119番通報の多言語化対応
- 大会組織委員会への支援・協力 など



■ まちづくりの推進

- 統一感のある案内サイン整備の検討、多言語対応による情報発信の推進
- 駅や道路、公共的建築物におけるバリアフリー環境の整備などによるユニバーサルデザインの推進
- 東京都、大田区等との交通ネットワーク構築 など



■ 経済・観光の振興

- 美術館・博物館でのオリンピック・パラリンピックをテーマとした展示等の検討
- ウェルフェアイノベーションの取組や福祉製品、サービスの開発企業との連携
- 水素関連技術、次世代自動車の普及促進等のPR
- 他都市との連携による共同セールスの実施など



" Prof. Sankai University of
Tsukuba / CYBERDYNE Inc. "

■ 今後の取組（推進ビジョンの策定）

- 「かわさきパラムーブメント」のコンセプトを前面に打ち出す
 - ① 市民を巻き込んだプロジェクトづくりに向けた取組
 - ② 実施計画から精選した市民との協働を重視した本市の取組
- 取組期間：平成28（2016）年度から平成33（2021）年度までを基本とする
 - 事業推進 第1期：平成28～平成29（2016～2017）年度
 - 第2期：平成30～平成33（2018～2021）年度

計画名称	28年度 (2016年度)	29年度 (2017年度)	30年度 (2018年度)	31年度 (2019年度)	32年度 (2020年度)	33年度 (2021年度)
推進ビジョン	(仮称)2020東京オリンピック・パラリンピックかわさきプロジェクト推進ビジョン 取組期間					
	事業推進（第1期）			事業推進（第2期）		
新たな総合計画 実施計画	第1期 実施計画			第2期 実施計画（想定）		

推進ビジョンの構成イメージ

- 1 はじめに（策定のねらい）
- 2 オリンピック・パラリンピックに関わる本市の状況
- 3 かわさきパラムーブメントと本市が目指すレガシー
- 4 市民を巻き込んだプロジェクトづくりに向けた取組
- 5 具体的な取組（本市の取組）